

令和7年度 事業報告

主な事業概要について (令和7年4月1日～令和8年3月31日)

令和7年度も、全国的に豪雨や台風などの自然災害が頻発・激甚化する状況が続き、地域社会や社会資本の維持管理に対する課題が改めて浮き彫りになりました。本県においても、道路や河川、橋梁、堤防などの施設へのリスクが顕在化し、降雨や積雪による影響への備えが一層重要となりました。これにより、事前防災や施設維持管理の精度向上、その効率化の重要性が一層認識される一年でありました。

こうした状況を踏まえ、当協会におきましても、時間外労働の上限規制に対応しつつ、休日や準備期間、天候などを考慮した適正な工期設定や施工時期の平準化、労働条件の改善、女性が活躍しやすい職場環境の整備などを着実に推進いたしました。これにより、業界全体の持続可能性と働く人々の安全・安心の確保に寄与する取り組みが進んでおります。

今年度の当協会の主な事業内容としては、未来の技術者の育成を目的に、引き続き建設技術講習会を開催しました。これらの講習会は県内3校において対面型式で実施され、技術発表会では来賓をお招きして、各委員会からの成果発表を行いました。

岐阜社会基盤研究所の研究発表会では、『グリーンインフラについて（現地調査まとめ）』の発表を行い、岐阜県自然共生工法研究会にも引き続き参画いたしました。これらの活動により、産官学の各共同研究を通じて他分野のノウハウや知識を収集し、人脈の形成や技術力の向上に努めることができました。

トンネル技術委員会

1. 活動方針

トンネルの維持修繕や環境問題及び新工法に関して調査研究を行い、県内業者の技術力向上を図る事と、適正工法の研究等を行う事で、トンネル施工のより質の高い社会資本整備・公共福祉の増進に寄与する事を目的としました。

2. 活動内容

県内企業の技術力向上の為に、以下のような活動を行いました。

I. 見学会の開催

令和7年9月18日に「主要地方道 乗鞍公園線（仮称）乗鞍トンネル工事」の現場見学会を開催いたしました。

II. 技術発表会への参加

『トンネル工事における環境対策及び補助工法について』と題して、生活環境への配慮や坑内環境を良くするための対策、施工の安全性や周辺環境を保全するための様々な補助工法について発表を行いました。

III. 建設技術講習会への参加

令和7年9月9日に関市立関商工高等学校2年生23名を対象に「社会基盤を支えるトンネル技術者」というテーマで講習を行いました。

ダム技術委員会

1. 活動方針

ダム、砂防堰堤の維持修繕・新技術・環境対策等に関して調査研究を行い会員相互の技術力向上を目指すと共に、地域への貢献につながるよう活動を行いました。

2. 活動内容

I. 現場見学会の開催

2工事現場「内ヶ谷ダム工事現場」、「新丸山ダム本体建設現場」における工事見学会を実施し、現状把握並びに問題点等への対策事例、新技術工法の事例等の情報収集により、ダム工事の技術力向上を図りました。

II. 技術発表会への参加

「岐阜県内におけるダム工事について」をテーマに、現場見学会の活動内容を発表しました。

Ⅲ. 建設技術講習会への参加

令和7年11月20日に、岐阜総合学園高等学校の環境テクノロジー系列2年生25名を対象に、建設技術講習会が開催され、「ダム造り」について講習しました。

下水道技術委員会

1. 活動方針

下水道施設の劣化が進み、自然災害が頻繁に発生している状況下、耐震対策及び維持・修繕（更生）には多くの課題があります。また、建設業の人材不足・担い手不足により技術力の低下が見られます。それらを踏まえ、新技術等を採用した施工や新技術の研究開発及び実用化を目指し県内企業に情報提供や技術力の向上を目的に活動を行いました。

2. 活動内容

I. 新技術（ICTの活用）の研究開発及び実用化に向けての勉強会

下水道管は閉鎖空間なため、事前にその損傷具合を調べる作業性は低く、思うように進んでいないのが現状です。そのなかで、新技術の研究開発および実用化を加速することにより、下水道事業における低炭素・循環型社会の構築やライフサイクルコスト縮減、浸水対策、老朽化対策等を実現し、発展するための勉強会を行いました。

II. 下水道の維持・修繕（更生）工事に関する施工方法の検討

管更生工法や各施設の修繕方法の情報収集を行い、新技術の検討を行い、技術力の向上を目指しました。

III. 自然災害に対応した、下水道の検討（地域にあった製品の模索）

県内企業で出来る新技術（製品）の施工習得のため、情報収集を行い研究し、各委員の技術力向上を目指しました。また、地域にあった施工方法や製品の特長を把握するよう活動しました。

IV. 施工・製品の新技术の開拓

新技術の習得等、新たな方向性を見出す為にも、有益な情報を取得し研究テーマに活かす予定でしたが、下水道工事の減少や感染症等

による影響によりインターネットなどの情報収集となりました。

V. 建設技術講習会への参加

- ・令和7年9月9日に関市立関商高等学校にて、派遣講習会を実施しました。

橋梁技術委員会

1. 活動方針

橋梁の長寿命化に向けた補修・補強工事における技術力の向上及び新技術・新工法の知識習得を目指すと共に、会員相互のコミュニケーションをはかり、情報交換を密にして、地域への貢献につながるよう活動を行いました。

2. 活動内容

I. 技術発表会資料作成による技術向上

『岐阜県内の橋梁の現状と課題 補修工法（SFRC 工法）の事例』と題して、橋梁の長寿命化に向けた橋梁の補修・補強工事における新技術や新工法の情報収集に努め、現在どのように橋梁が補修されているかを確認しながら技術発表会資料を作成と委員の知識・技術力の向上を目指しました。

II. 現場見学会の実施

県内の橋梁補修工事に注視し、令和7年5月15日及び令和7年10月30日に揖斐郡揖斐川町シッペ由定橋における橋梁補修工事の現場見学会を開催しました。

III. 建設技術講習会への参加

令和7年11月5日に岐阜工業高等専門学校 環境都市工学科4年生38名を対象に『橋梁とは』と題して、講習会を行いました。

自然共生技術委員会

1. 活動方針

建設工事と自然との関わりや取り組みについて調査研究を行い、自然共生

に関する知識や技術の向上を目的としました。

2. 活動内容

I. 概念グリーンインフラストラクチャーの県内実施事例のまとめ

自然の持つ多様な機能を活用した社会資本整備や土地利用・管理の手法「グリーンインフラストラクチャー」について、平成29年から継続して調査研究を進めてまいりました。今まで調査した県内の実施事例を取りまとめ、技術発表会および岐阜社会基盤研究所主催の研究等発表会にて報告を行いました。

II. 持続可能な自然共生社会の実現に向けた取り組みや新技術の調査

建設機械の脱炭素化に向けて、電動建機に関する勉強会を令和7年7月8日にコマツカスタマーサポート大垣支店内で行いました。

III. 建設技術講習会への参加

岐阜工業高等専門学校環境都市工学科4年生38名に対し、『地域を守る建設業～防災と豊かな自然との共生のために～』というテーマで講習を実施しました。建設会社が地域の安全と環境保全に大きく貢献する、やりがいのある仕事であることを強調して、建設会社という進路を前向きに検討するべく講習を行いました。

安全・環境委員会

1. 活動方針

社会基盤整備・維持管理の担い手として、労働安全・環境の改善策の提案 指導、意識の向上及び自然環境問題への対応・改善を目的に活動しました。

2. 活動内容

I. 合同安全講習会に参加

令和7年6月13日、労働災害の防止についての講習を受講しました。

II. 現場パトロールの実施

令和7年7月7日、東海環状本巣地区道路整備工事現場の安全環境パトロールを実施しました。

III. 技術発表会への参加について

令和7年8月8日、技術発表会（当協会主催）に参加し、「現場における安全と環境に対する取組み」について発表しました。

IV. 建設技術講習会の実施について

令和7年11月20日、岐阜総合学園高等学校にて建設技術派遣講習会を実施しました。

V. 各種環境フォーラム等への参加

令和7年12月5日、ポートメッセ名古屋にて開催の「建設技術フェア」に参加し、技術開発・新技術導入の促進、建設関連産業の振興等について学びました。

企画広報委員会

1. 活動方針

各委員会における研究・開発の成果を、研修会等の企画・開催を通じて広く発信し、地域の基盤整備に貢献するとともに社会のニーズに応えることを目的として活動しました。

2. 活動内容

I. 技術発表会（当協会主催）

令和7年8月8日に、サンレイラ岐阜において技術発表会を開催しました。来賓として、岐阜県県土整備部技術検査課 課長 古川雄太様をお迎えしました。

発表は、トンネル技術、ダム技術、下水道技術、橋梁技術、自然共生技術、安全・環境の6委員会より行いました。

II. 研究発表会（岐阜社会基盤研究所主催）への参加

令和7年11月6日に、ホテルリソル岐阜において開催された研究

発表会に参加しました。

Ⅲ. 建設技術講習会の開催

- 1) 令和7年9月9日に、関商工高等学校 建設工学科2年生23名を対象に開催しました。

第1部では、企画・広報委員会、トンネル技術委員会、下水道技術委員会が講義を行いました。

第2部では、『若手技術者がホンネで答えます！』と題してグループディスカッションを行い、会員企業の若手技術者が日々の就業内容を説明するとともに、学生からの質問に本音で答弁しました。

- 2) 令和7年11月5日に、岐阜工業高等専門学校 環境都市工学科4年生38名を対象に開催しました。

第1部では、企画・広報委員会、橋梁技術委員会、自然共生技術委員会が講義を行いました。

第2部では、『若手技術者がホンネで答えます！』と題してグループディスカッションを行い、会員企業の若手技術者が日々の就業内容を説明するとともに、学生からの質問に本音で答弁しました。

- 3) 令和7年11月20日に、岐阜総合学園高等学校 環境テクノロジー系列2年生25名を対象に開催しました。

第1部は、企画・広報委員会、ダム技術委員会、安全・環境委員会が講義を行いました。

第2部では、『若手技術者がホンネで答えます！』と題してグループディスカッションを行い、会員企業の若手技術者が日々の就業内容を説明するとともに、学生からの質問に本音で答弁しました。

Ⅳ. 広報活動の実施

各委員会の活動および研究成果を一般の方々も含め広く知っていただくために、ホームページの運用を通じて広報活動を行いました。